公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ことばの教室ことのは2号館		公表日		令和 7年 4月 30日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	11	1	対象児童に応じて、午前部、午後部と分かれており、各時間帯利用児童の人数に対して十分に空間的な余裕はある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	2	個別対応での支援をしており、配置基準については適切である。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	4	1階と2階に活動スペースが分かれており、遊具も取り出しやすい状況に設置して、写真やイラストも視覚的に理解しやすくしている。階段については勾配は少きついが手すりの設置や転倒しても怪我の少ないようマットを敷くなど対策もとっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	5	活動や訓練に応じて、部屋が分かれており、児童も好きな活動や落ち着く空間を求めて移動も可能。	教材やおもちゃの置き場が定着できていない。また、掃除の行き届かない場所もあるため、写真等で物品の住所をきめ児童も片付けや取り出しがしやすい環境づくりを心がけたい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11	0	職員部屋以外は基本自由にこどもたちが使える様になっている。	職員部屋においても、職員の許可や対応できるタイミングであれば入室して職員との会話や活動が可能。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10	1	午前や午後の活動後のミーティングや適宜職員間の話し合いの中で業務改善のための話し合いを行なっている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	1	前年度の保護者向け自己評価の結果を踏まえ、改善できる点は速やかに改善を行う様にしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	2	適宜職員間のミーティングの中で、業務改善等の意見を出して、速やかに取り組めるよう努めている。	予算の伴う事項については、管理者と会社役員と調整しながら取り組んでいる。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	4		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	11	0	各自で興味関心のある研修の情報を集め受講してもらったり、法人内の勉強会や情報交換会にて資質向上を図っている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11	0	支援プログラムを作成し、公式LINEにて保護者へ配布。また教室の壁に掲示している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	11	0	入会時や日々の活動の申し送りの中でニーズ等を把握し、課題設定や支援計画の中に取り入れて作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11	0	支援計画作成時には、職員全体が集うタイミングで支援計画案に対し意見を出し合い、確認している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11	0	日々の活動の振り返りの中で様子や成長している面や課題などを共有し、次の活動に活かすようにしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	3	K式発達検査やその他の検査等を使用し把握確認している。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	1	支援計画の中に左記の項目の狙い等を踏まえ支援計画の中に盛り込む様にしている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	1	児童それぞれの興味関心のある遊びや遊具などを使用し、職員がそれぞれのアプローチ方法で活動を行なっている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	1	児童それぞれの興味関心のある遊びや遊具などを教材として活動意欲を掻き立てるよう工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10	1	個別活動を基本に2人～4人程度の小集団での活動機会を組み合わせ社会性を培える活動ができる様支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	4	前日に活動予定表を作成し、職員の役割分担を設定している。	前日に作成できない時は業務の流れの中で職員間で確認を行なっている。できる限り、事前での打ち合わせができるよう準備していきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11	0	午前、午後の活動終了時に活動の振り返りの中で児童それぞれの様子等を職員間で共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11	0	基本、日々の活動後にきちんと記録をとっている。それを元に次回の活動目標や方法につなげている。	日々の活動記録等をゆっくりまとめる時間が取れない。また、定期的に目標設定を話したりまとめることが難しい。事務日等を設定して、記録の点検や支援目標を定期的実施していけるように改善していきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11	0	定期的に児童の成長等を確認。家庭や保育園等の様子なども参考に定期的に見直しを行なっている。	定期的に目標設定を話したりまとめることに追われる印象。定期的に事務日等を設定して、記録の点検や支援目標を作成できるように改善していきたい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9	2		
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	11	0	子ども達が自己決定できる様に支援を行っています。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11	0	言語聴覚士や児童発達支援管理責任者にて情報を共有確認し、いずれかにて参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	4	必要に応じて、モニタリング会議等で情報共有を行い、このほかでの支援の内容等を確認している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10	1	学校の年間行事予定表は共有しており下校時間の変更などもご家族と共有ができています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	2	定期モニタリング以外にも、必要に応じて担当者会議に参加するなどして、情報共有とそれぞれの役割分担や相互理解を図っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	10	1	定期モニタリング以外にも、必要に応じて担当者会議に参加するなどして、情報共有とそれぞれの役割分担や相互理解を図っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	8	助言等を求めたりなどする機会は少ないが、センター企画の研修等にできるだけ参加し、いつでも連携を図れるよう関係作りができる様意識している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8	3	定期的な相互間の交流は行なっていないが、地域の公園や児童館等で偶然に出会うタイミングで遊具の共有をしたり、遊びを共有できるようサポートしている。	

	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	5	6		現在参加はしていないが、機会があれば検討したい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	11	0	日々、対面での申し送りの中で家庭とこどもの様子を伝え合い、成長や課題について共通理解を図っている。また、保育所等の情報も適宜保護者からもらうなどしている。	対面での申し送りが難しい場合は、電話や公式LINEを通じて情報の共有を図れるよう工夫している。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	5	日々の申し送り時にペアレントトレーニングの観点からの助言等を行なっている。	講習会形式でのペアレントトレーニングは実施していない。保護者会の開催を企画する中でペアレントトレーニングのプログラムも取り入れていけるよう検討したい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11	0	利用契約時にそれらの説明を行なっている。また、変更等があれば適宜機会を設けて説明を行なっている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11	0	日々の対面での申し送りの中で、適宜保護者のニーズや意向を確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10	1	保護者の来所時に支援計画を説明し同意を得て署名等を行ってもらっている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11	0	日々の申し送りの中で相談に応じ助言などを行なっている。また、必要があれば面談として個別に時間を取って話し合いを行なっている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	2	9	これまで父母会等の開催を実施したことがない。	保護者会開催に対するニーズ確認から行い、教室単独開催または合同開催など開催実施に向け企画検討していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11	0	保護者より苦情等のご意見をいただいた際には、管理者から改めてご意見の内容を確認させてもらい、迅速に対応できるよう心がけている。	ご意見をいただいた際には、会社全体に情報を共有し、他教室でも問題となる対応がないかチェック等し改善に取り組む様になっている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	2	ここのは姉妹教室全体でHPやブログを開設しており、その中で行事や活動の様子等を記事の中で発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11	0	児童に対しては、イラストや写真等で視覚的理解のしやすい形で意思疎通を図っている。保護者への情報伝達についても、理解してもらえるよう、文書や資料等も適宜用いるなどしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	9	教室の行事に地域住民を招待などしていない。しかし、地域住民に対して、散歩等で出会った場合は積極的に挨拶などをして、教室の存在や活動について知ってもらえるよう関係作りは行なっている。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	2	各種マニュアルを作成し職員や家族等に周知している。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11	0	避難訓練は年に2回実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	2	事前に保護者より持病やてんかん・アレルギーの有無について確認している。必要な対応についても適宜職員全体で周知確認している。	

非常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10	1	事前に保護者より持病やてんかん・アレルギーの有無について確認している。必要であれば、医師の指示書等の確認し、適宜職員全体でも周知等している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	1	安全計画を作成しており、定期的に更新や点検を行っています。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	3		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11	0	ヒヤリハットのファイルを作成し、事故の未然防止や事故の際の対応について職員全体で確認できるようにしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11	0	虐待防止のための研修を定期的に行ったり、会社全体で虐待防止委員会や対策チームを発足し会社全体で虐待防止に取り組んでいる。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	3	やむを得ず、身体拘束を行う場面が想定される児童については、個別支援計画に記載し、保護者に対しても事前説明を行なっている。	